

校内研だより no.6

四万十市立西土佐中学校

2020年9月16日 文責：福田

めざす授業 『一緒に考えたいくなる授業』（発問の工夫によるPDCAサイクルが機能する授業）

数学科指導案検討会

10月5日（月）は本校で組織づくり講座があります。午後から3年生の数学の授業を公開します。数学科では全学年で少人数指導をしています。生徒の希望を受けて面談を行い、クラスを α コースと β コースに分け、毎時間のゴールは同じところを目指して授業を積み重ねています。少人数であるため、学級全体では意見を言いにくい生徒も、安心して自分の考えを出すことができます。

9/16（水）の合同チーム会では、数学科の指導案をもとに、両チームで検討会を行いました。

3年生の『2次方程式』全14時間の第1時間目。導入となる授業で、2次方程式の必要性を理解させる時間です。導入で1・2年生の復習を行った後、問題提示では具体物を使って予想をさせ、課題解決のための見通しをもたせます。めあての提示後に問題の解決に向けて個人思考・全体思考を行います。

本時の【授業参観の視点】を『一人ひとりの生徒が見通しをもって学習に臨み、生徒の気づき・発言によって授業が展開される、主体的な学びが実現されているか』と設定した数学科は、見通しをもたせるために導入を工夫しました。あとは、主体的な学びが実現されるために、生徒の気づきや発言をいかにつなげていくかです。

Aチームは α コース、Bチームは β コースということで、同じ指導案をもとに、それぞれのコースの生徒を思い浮かべながら、授業の流れを確認していきました。



〈Aチームの協議より〉

α コースの生徒4名は数学が得意とは言えないものの、活発な言語活動をしながら授業で学ぼうとする姿勢がある。この4名の数学的思考を働かせるためにどのような手立てがきめるのか、「特別支援」と「授業規律」の二つの視点に焦点を当て、授業内容を協議した。

①特別支援の視点・・・具体物を用いての導入の工夫が効果的である。積み上げのない生徒にも理解が

しやすくなるように、公式などが復習できるといい。(面積の求め方など)

②授業規律の視点・・・生徒が主体となるような言語活動中心の授業で、「授業規律」をどう捉えるべきかという授業者の悩みに対し、授業のめあてに向かうための活動が行われている場面では、多少の盛り上がりなどは許容範囲ではないかという意見があった。

これ以外に、授業内容・構成に関することで、シンプルに思考できる問題から複雑な問題に挑戦させてみるという構成にしてみてもどうかという意見が出され、数学科で再度指導内容の構成を検討してみるようになった。

〈Bチームの協議より〉

βコースの生徒7名は、思考力が高く、個人思考やペア活動には集中して取り組むが、全体の場になると発言をする生徒が限定される傾向にある。そこで、全員が全体の場でも自分の考えを発言できるようにするための手立てを考えた。

①すぐに発言してしまう生徒もいるので、全員の活動を保障するためにも、挙手発言をさせる。

②自分の考えをノートには書いており、積極的に発言はしないが指名するとしっかり答えられるので、全員の手が挙がるまで待つ場面も作る。

その他には、めあてを「長方形の縦と横の長さを求める方法を考えよう」としているが、まとめにつなげるために「面積や周の長さに着目してという言葉があるので、それを使うとよいのではないか、見通しを持たせるときに、条件をたくさん出させる、塾で先の内容を学習している生徒もいるので、早く終わった場合の課題等を考える必要がある、などの意見が出された。

校内研後も、引き続き、授業者を囲んで熱心に協議する姿がありました。



9/10(木)～18(金)はお互いに授業を見合う期間とし、空き時間には他教科の授業を自由に見合っています。Aチームは「特別支援」と「授業規律」を、Bチームは「主体性(生徒一人ひとりが自分事として授業に参加する)」を視点にして、他教科の授業に学ぼうとしています。9/23(水)に共有することで、さらに授業改善に生かせると期待しています。

また、次回のチーム会では、模擬授業を予定しています。机上で検討した指導案が、実際の授業となった時、どのような気づきが生まれるのか楽しみです。もっとも、Bチームのメンバーは、今日の指導案検討会でなかなか授業内容が理解できず、数学の授業についていけないのか、かなり不安でいっぱいです・・・。

チーム西土佐！ますます力を合わせていきましょう！！